

実体経済の動向

◇生産、出荷とも増加、在庫は前2か月減少のあと増加

(生産—増加)

6月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は、+2.0%と前月減少(-1.8%)のあと増加した(前年同月比+1.9%)。

もつとも、4~6月通計では、-0.6%と前2期増加(55年10~12月+1.5%、56年1~3月+1.7%)のあと小幅の減少となった。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

6月の動きを財別にみると、一般資本財、非耐久消費財を除き各財とも増加した。すなわち、資本財輸送機械は小型自動車、トラックが輸出増を主因に増加したほか、産業用車輻、船舶も増加したため、全体でも前月減少のあと増加した。また、建設財は、アルミサッシ等が減少したものの、土石製品、セメント等の公共工事関連財やステールシャッターの増加を中心に増加し、また生

産財も、非鉄地金(銅地金、アルミ地金)や化学肥料、普通鋼冷延薄板が減少した反面、需要好調の通信・電子部品やプラスチック、有機薬品、紙(印刷筆記図画用紙)、板紙等が増加を示したため、前月減少のあと増加した。さらに、耐久消費財は、エアコン等夏物商品が天候不順の影響から減少を続け、二輪自動車、ラジオ・テレビ・音響装置(カラーTV)も減少となったものの、軽自動車、小型自動車等の増加が寄与し、全体では前2か月減少のあと増加となった。

この間、一般資本財は特殊産業機械、エレベーター、事務用機械、通信機械の増加にもかかわらず、農業用機械の低調や発電機、クレーン、ポンプ、圧縮機・送風機の反動減が響き前2か月増加のあと減少、また非耐久消費財も、浴用石けん、液化石油ガス等の増加にもかかわらず、軽金属板製品、天然色フィルム等が減少したため、小幅ながら5か月連続の減少となった。

(出荷—増加)

6月の出荷(速報)は、+1.8%と前月大幅減少のあと増加した(前年同月比+1.0%)。

もつとも、4~6月通計では-0.6%と前2期増加(55年10~12月+2.1%、56年1~3月+1.5

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

| | 55年 | | 56年 | | 56年 | | |
|------------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 鉱工業指数 | 140.5 | 142.6 | 145.0 | 144.2 | 145.0 | 142.4 | 145.2 |
| 前期(月)比 | -2.0 | 1.5 | 1.7 | -0.6 | 0.3 | -1.8 | 2.0 |
| 前年同期(月)比 | 4.6 | 3.4 | 1.4 | 0.6 | 0.3 | -0.4 | 1.9 |
| 投資財 | -1.2 | 0.1 | -1.0 | -0.4 | 0.2 | 0.7 | 1.5 |
| 資本財 | 1.5 | 1.4 | -0.6 | -0.1 | 0.5 | 1.9 | 0.7 |
| 同(輸送機械を除く) | 1.4 | 2.0 | -1.9 | 0.8 | 0.2 | 4.8 | -1.2 |
| 輸送機械 | 0.6 | -2.0 | 5.0 | -1.2 | 4.6 | -8.5 | 7.5 |
| 建設財 | -7.7 | -3.4 | -3.3 | -0.1 | 2.9 | -3.3 | 3.5 |
| 消費財 | 0.8 | 4.6 | 5.3 | -1.3 | -0.6 | -2.2 | 1.4 |
| 耐久消費財 | 3.8 | 6.0 | 8.1 | 0.6 | -0.7 | -2.3 | 2.1 |
| 非耐久消費財 | -1.5 | 2.3 | 2.4 | -3.2 | -0.7 | -2.3 | -0.1 |
| 生産財 | -4.2 | 0.7 | 0.8 | -0.4 | 1.3 | -3.4 | 2.3 |

(注) 通産省調べ。56年6月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

| | 55年 | | 56年 | | 56年 | | |
|------------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 鉱工業指数 | 133.8 | 136.6 | 138.6 | 137.8 | 140.1 | 135.4 | 137.8 |
| 前期(月)比 | -3.1 | 2.1 | 1.5 | -0.6 | 2.1 | -3.4 | 1.8 |
| 前年同期(月)比 | 2.1 | 1.1 | -0.1 | -0.2 | -0.5 | -1.3 | 1.0 |
| 投資財 | -1.0 | -0.9 | -0.1 | 0.7 | 2.9 | -1.8 | 3.1 |
| 資本財 | 1.7 | 0.3 | 0.0 | 1.8 | 4.6 | -1.0 | 2.6 |
| 同(輸送機械を除く) | 2.3 | 2.0 | -1.6 | 2.9 | 4.9 | 0.7 | 1.4 |
| 輸送機械 | 2.1 | -4.4 | 2.1 | 0.7 | 6.7 | -6.1 | 6.2 |
| 建設財 | -6.0 | -2.8 | -2.9 | -0.7 | 1.7 | -3.3 | 3.8 |
| 消費財 | -1.0 | 5.1 | 5.2 | -3.1 | 0.6 | -5.8 | 1.5 |
| 耐久消費財 | -0.5 | 8.6 | 8.0 | -3.8 | 1.9 | -6.9 | 0.7 |
| 非耐久消費財 | -1.3 | 2.9 | 1.8 | -2.8 | 0.4 | -4.7 | 1.1 |
| 生産財 | -5.3 | 2.2 | 0.4 | -0.6 | 2.5 | -4.0 | 2.0 |

(注) 通産省調べ。56年6月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

%)のあと小幅ながら減少をみた。

6月の動きを財別にみると、一般資本財が3か月連続の増加となったほか、その他の財も前月減少のあと軒並み増加を示した。すなわち、一般資本財はパッケージ型エアコンや農業用機械(コンバイン)が天候不順もあってかなりの減少となったが、民間設備投資関連の特殊産業機械、金属加工機械が増勢を続けたほか、民間建築関連のエレベータや電力投資関連の発電機、電力・通信ケーブルも増加したため、全体では3か月連続の増加となった。資本財輸送機械もバス、普通自動車が増加となったものの、トラック、小型自動車、船舶が輸出増もあって増加したため、かなりの増加となった。また、建設財は住宅関連のアルミサッシ、アルミドアが減少したものの、公共工事関連の土石製品(コンクリートパイル、道路用コンクリート製品)、セメントや民間建築関連のステールシャッター等が増加したほか、条鋼類(小形棒鋼、H形鋼)も前月減少のあと増加したため、全体でも増加した。生産財は化学肥料、非鉄地金(アルミ地金)等が増勢を続けたものの、通信・電子部品が増勢を続けたほか、有機薬品(エチレン、プロピレン)、合繊原料(カプロラクタム)、プラスチック(ポリプロピレン、ポリスチレン)、白板紙等も、ユーザー在庫の調整進捗などから、増加したため、全体でも、前月減少のあと増加した。さらに、耐久消費財は、天候不順にともなうエアコン、乗用車用エアコンの大幅減少にもかかわらず、二輪自動車、軽自動車や光学機械・同部品の増加が寄与し、また非耐久消費財は、ガソリン、灯油、天然色フィルム、浴用石けん等の反動増などから、各々増加した。

(在庫—前2か月減少のあと増加)

6月の在庫(速報)は、+1.6%と前2か月減少(4月-0.3%、5月-0.1%)のあとかなりの増加となった。この間、在庫率指数(50年=100)は、94.2と前月上昇のあと横ばいとどまった。

在庫の増減を財別にみると、建設財、非耐久消費財を除き、その他の財はいずれも増加した。す

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

| | 55年 (期末) | | 56年 (期末) | | 56年 | | |
|------------|-------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| | 9月 | 12月 | 3月 | 6月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 鉱指数 | 114.0 | 114.4 | 116.0 | 117.4 | 115.7 | 115.6 | 117.4 |
| 工前期(月)末比 | 3.3 | 0.4 | 1.4 | 1.2 | -0.3 | -0.1 | 1.6 |
| 業前年同期(月)末比 | 10.7 | 8.5 | 8.1 | 6.3 | 9.2 | 6.1 | 6.3 |
| 投資財 | 4.5 | 1.9 | 0.4 | 1.3 | -0.5 | -0.1 | 2.0 |
| 資本財 | 6.4 | 1.9 | 1.8 | 3.0 | -0.9 | -0.2 | 4.2 |
| 同(輸送機械を除く) | 7.3 | 1.4 | -0.1 | 4.9 | 1.6 | 0.6 | 2.6 |
| 輸送機械 | 4.3 | 3.0 | 5.8 | -0.1 | -4.6 | -2.1 | 7.0 |
| 建設財 | 2.4 | -0.1 | 0.4 | -1.4 | -1.1 | 0.4 | -0.7 |
| 消費財 | 2.1 | -1.5 | 0.5 | 2.4 | -0.6 | 1.3 | 1.6 |
| 耐久消費財 | 11.3 | -1.3 | -6.6 | 2.9 | -1.3 | 1.4 | 2.9 |
| 非耐久消費財 | -5.1 | -3.1 | 9.1 | 0.9 | 0.1 | 0.9 | -0.1 |
| 生産財 | 3.4 | 0.5 | 2.6 | 0.8 | 0.0 | -0.4 | 1.1 |

(注) 通産省調べ。56年6月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

なわち、一般資本財は、特殊産業機械、金属加工機械や農業用機械、パッケージ型エアコンの増加を主因にかなりの増加を示し、資本財輸送機械も普通自動車、トラック、バス等の増加から3か月ぶりに増加した。また、生産財は、在庫調整進捗を映じ、上質紙、板紙(段ボール原紙)、紡績(綿糸、毛糸)、有機薬品(二酸化エチレン、合成ブタノール)等が在庫減をみたが、反面化学肥料、ソーダ工業薬品(か性ソーダ)、冷間仕上鋼材、石油製品(ナフサ、C重油等)が増加したため、全体でも前月減少のあと増加した。さらに、耐久消費財は、二輪自動車、軽自動車、時計等が増加したものの、エアコン、乗用車用エアコンが天候不順の影響から大幅な増加となったほか、ラジオ・テレビ・音響装置、光学機械・同部品も増加したため、全体でも前月に続く増加となった。

一方、建設財は、アルミドア等が出荷低調から増加したものの、土石製品、セメント、小形棒鋼、ステールシャッター等の公共工事、民間建築関連が出荷増を映じ在庫減となったため、全体でも減少した。また、非耐久消費財は、ニットおよび繊維二次製品等が増加となったものの、天然色フィルム、浴用石けん、液化石油ガス、家庭用薄

葉紙等が減少したため、小幅の減少となった。

**民間設備投資——機械受注、建設工事受注は減少、
一般資本財出荷は引続き増加**

6月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、-5.7%(前月-8.1%)と4月以来3か月連続の減少となった(前年同月比-10.4%)。業種別にみると、製造業からの受注は鉄鋼、自動車、化学等が増加したものの、紙・パルプ、食料品、石油等の減少から-6.1%と2か月連続の減少となり、非製造業からの受注も鉱業の減少などから-6.2%の減少となった。

また、6月の建設工事受注(民間分、速報)は、-15.4%と新耐震法移行にともなう駆け込み着工の反動もあって、前3か月増加(前月+10.8%)のあと減少となった。

この間、6月の一般資本財出荷は+1.4%と4月以来3か月連続の増加となった(前月+0.7%)。品目別には民間設備投資関連の特殊産業機械、金属加工機械が増勢を続けたほか、民間建築関連のエレベータが前月来の持直しを示し、電力投資関連の発電機、電力・通信ケーブルも増加に転じた。

◇小売商況——暑気到来から7月に入り持直し

6月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、

需要別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

| | 55年 | | 56年 | | 56年 | | |
|-------------|-----------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|--|
| | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 4月 | 5月 | 6月 | |
| 民需 | 7,514 (36.0) | 5,890 (-21.6) | 5,754 (-2.3) | 5,848 (-5.5) | 5,836 (-0.2) | 5,577 (-4.4) | |
| 同(船舶・電力を除く) | 4,886 (11.8) | 4,431 (-9.3) | 4,362 (-1.6) | 4,697 (-3.0) | 4,318 (-8.1) | 4,072 (-5.7) | |
| 製造業 | 2,659 (19.3) | 2,432 (-8.5) | 2,471 (1.6) | 2,705 (5.9) | 2,428 (-10.2) | 2,279 (-6.1) | |
| 非製造業 | 4,618 (38.3) | 3,515 (-23.9) | 3,267 (-7.1) | 3,305 (-13.0) | 3,218 (-2.6) | 3,277 (1.8) | |
| 同(船舶・電力を除く) | 2,305 (7.8) | 2,025 (-12.1) | 1,885 (-6.9) | 1,922 (-16.6) | 1,926 (0.2) | 1,807 (-6.2) | |
| 建設工事受注(民間) | 4,125 (4.8) | 4,317 (4.6) | 4,769 (10.5) | 4,698 (-1.6) | 5,207 (10.8) | 4,403 (-15.4) | |

(注) 機械受注は経済企画庁調べ、建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

速報)は、+4.8%(前月+8.4%)と天候不順による夏物季節商品の売行き不振が響いて低い伸びにとどまった。品目別には、食料品や雑貨(スポーツ用品等)が比較的底固い売行きを続けたものの、衣料品や家電製品は、エアコン、扇風機等夏物商品の販売不振から大きく伸び悩んだ。もっとも、7月入り後は暑気到来にともなう夏物商品の売行き好転に加え、中元贈答品需要の持直しもあって売上げは持直している模様である。

7月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前年比-5.3%となお前年水準を下回っているが、マイナス幅は前月(同-6.7%)に比べさらに縮小した。一方、家電製品販売は、VTR、音響製品(ラジカセ、テープレコーダー等)が底固い売行きを続けたほか、前月不振のエアコン、扇風機が暑気到来からかなり急ピッチの回復を示し、冷蔵庫、洗濯機等の白物家電製品も幾分持直した。

◇商況の基調——底固い動き

7月の商品市況は、建材(製材、合板)、アルミ地金が住宅投資不振等を映じ続落し、棒鋼もユーザー・流通筋の手当て買い一巡などから反落したが、他方、非鉄(銅、鉛)、天然繊維(綿糸、毛糸)、石油製品(ガソリン、C重油)、砂糖等が反発、さらにこれまで低迷を続けてきた段ボール原紙、生コンクリート等も下げ渋るなど、全体として底固い商況を呈した。

このように品目によって上昇の動きがみられるのは、メーカーが生産抑制姿勢を維持ないし強化している中で、

- ① 暑気到来に伴い末端消費が持直していること(天然繊維、砂糖等)、
- ② 海外原材料市況が上昇したこと(非鉄等)、
- ③ 為替円安の進展により原料コスト高(石油製品等)や安値輸入玉の流入鈍化(塩ビ等)がみられたこと、

などによるもの。

(卸売物価——0.4%の上昇)

7月の卸売物価は、前月比+0.4%と4か月連

卸売物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

| | ウエイト | 56年 | | 56年 | | | | | 最近月の 前年 同月比 |
|-----------|---------|------------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------------|
| | | 1~3月 平均 | 4~6月 平均 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | |
| 総平均 | 1,000.0 | - 0.7 | 1.1 | - 0 | - 0.5 | 0.8 | 0.4 | 0.4 | 1.1 |
| 食料品 | 140.9 | 0.3 | 0.8 | 0 | 0.2 | 0.7 | 0.2 | 0.3 | 3.8 |
| 非食料農林産物 | 18.9 | - 2.8 | - 0.7 | - 1.7 | 1.0 | 0.4 | - 0.6 | - 1.1 | - 9.9 |
| 繊維製品 | 62.9 | - 0.4 | 0.4 | 0.4 | - 0.1 | 0.2 | 0 | 0.3 | - 0.7 |
| 製材・木製品 | 33.6 | - 3.9 | - 0.7 | - 1.7 | 0.9 | 1.0 | - 1.0 | - 0.8 | - 13.2 |
| パルプ・紙・同製品 | 28.9 | - 2.8 | - 1.9 | - 0.4 | - 0.7 | - 0.5 | - 0.2 | - 0.3 | - 7.5 |
| 金属素材 | 12.6 | - 5.9 | 5.4 | 1.6 | 3.1 | 2.6 | 0.6 | 1.6 | - 5.1 |
| 鉄鋼 | 80.7 | - 1.4 | 1.7 | 0 | 0.9 | 0.8 | 1.4 | 0.9 | 1.6 |
| 非鉄金属 | 26.1 | - 8.7 | - 0.7 | - 0.2 | 1.0 | - 0.6 | - 0.2 | - 1.0 | - 14.0 |
| 金属製品 | 37.0 | - 0.4 | - 0.5 | - 0.2 | - 0.2 | 0 | 0 | - 1.0 | - 1.0 |
| 電気機器 | 73.3 | 0.3 | - 0.1 | 0 | - 0.3 | 0.2 | 0.3 | 0.3 | 0.9 |
| 輸送用機器 | 74.0 | 0.3 | 1.3 | 0.2 | 0.2 | 1.4 | 0.1 | 0.4 | 2.9 |
| 一般・精密機器 | 95.7 | 0 | 0.5 | 0.1 | 0.5 | 0.1 | - 0.1 | 0.2 | 1.5 |
| 化学製品 | 91.1 | - 2.1 | - 0.5 | - 0.4 | 0 | 0.2 | - 0.5 | 0.5 | - 3.8 |
| 石油・石炭・同製品 | 102.2 | 0.4 | 5.4 | 0.6 | 1.5 | 3.1 | 2.4 | 0.9 | 12.2 |
| 窯業製品 | 30.5 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | - 0.2 | 0 | 0.2 | 2.2 |
| 電力・ガス | 25.5 | 0.1 | 0.3 | 0.1 | 0.3 | 0.2 | - 0.4 | 4.7 | - 0.5 |
| 雑品目 | 66.1 | 1.2 | - 0.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | - 0.5 | 1.0 |
| 工業製品 | 816.4 | - 1.1 | 0.7 | - 0.2 | 0.4 | 0.7 | 0.3 | 0.2 | 0.1 |
| 大企業性製品 | 579.9 | - 0.9 | 1.0 | - 0.1 | 0.4 | 1.0 | 0.5 | 0.2 | 1.4 |
| 中小企業性製品 | 214.6 | - 0.9 | - 0.2 | - 0.3 | 0.1 | 0.2 | - 0.2 | 0 | - 2.6 |
| 非工業製品 | 158.1 | - 0.5 | 3.3 | 0.7 | 1.1 | 1.3 | 1.2 | 0.8 | 6.0 |
| 国内品 | 801.9 | - 0.8 | 0.2 | - 0.2 | 0.1 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | - 0.4 |
| 輸出品 | 94.2 | - 0.3 | 4.5 | 1.1 | 1.5 | 2.0 | 1.7 | 2.1 | 6.6 |
| 輸入品 | 103.9 | - 0.4 | 5.6 | 1.2 | 2.1 | 2.4 | 1.9 | 1.2 | 7.3 |

(注) 日本銀行調べ。

続の上昇となった(前年同月比+1.1%)。品目別にみると、国内品は、製材・木製品、金属製品(アルミ・サッシ)等が値下りしたものの、夏季電力料金適用が響き、+0.2%の微騰となった。一方、輸出品は為替円安や輸出好調に伴う油井用鋼管等の値上りから、輸入品も為替円安を主因に、それぞれ+2.1%、+1.2%の上昇となった。

用途別にみると、素原材料は為替円安から+1.1%、と続伸した。また中間品も、製品原材料、建設材料が下落したものの、燃料・動力が夏季電力料金適用により上昇したため、+0.1%の微騰となった。この間、完成品は、資本財が引続き落着

いた動きとなっているものの、パン等の消費財が値上りしたため、+0.2%と小幅ながら上昇した。

(消費者物価——7月<東京都区部、速報>は前月比-0.3%の下落)

7月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比-0.3%の下落となった。これは、季節商品が野菜の値下り(-12.1%)を主因に下落(-3.0%)したほか、除く季節商品も夏物被服の値下り(-1.8%)等から微落(-0.1%)となったことによるもの。

なお、前年同月比では+4.1%と前月(+4.8%)をさらに下回った。

消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

| | | ウエイト | 56年 | | 56年 | | | 最近月の 前年 同月比 |
|------------------|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------------|-------------------|
| | | | 1~3月 平均 | 4~6月 平均 | 5月 | 6月 | 7月 | |
| 東 京 | 総合 | 100.0 | 1.3 | 1.3 | 0.8 | 0 | *- 0.3 | * 4.1 |
| | 季節商品を除く総合 (季節商品) | 91.9 (8.1) | 0.1 (14.3) | 1.6 (- 1.6) | 1.3 (- 4.3) | 0.2 (- 2.3) | *- 0.1 *(- 3.0) | * 3.7 *(9.1) |
| | 食料 | 40.1 | 3.9 | - 0.2 | - 0.5 | - 0.3 | *- 0.5 | * 5.4 |
| | 住居 | 11.1 | 0.4 | 1.0 | 0.4 | 0.7 | 0.1 | 2.5 |
| | 光熱 | 4.2 | - 0.1 | 0.2 | 0.2 | 0.2 | 0 | 0.2 |
| 全 国 | 被服 | 12.4 | - 2.5 | 1.8 | 4.4 | - 1.3 | - 1.8 | 2.5 |
| | 雑費 | 32.2 | 0.5 | 2.6 | 1.4 | 0.4 | * 0.1 | * 4.5 |
| | 総合 | 100.0 | 1.1 | 1.9 | 1.0 | 0 | ... | 5.1 |
| 特 殊 分 類 | 季節商品を除く総合 (季節商品) | 91.7 (8.3) | 0.1 (11.2) | 2.1 (0.6) | 1.4 (- 3.0) | 0.1 (- 1.5) | ... (...) | 4.2 (14.4) |
| | 農水畜産物 | 16.3 | 7.1 | - 0.6 | - 2.4 | - 1.0 | ... | 9.8 |
| | 工業製品 | 46.6 | - 0.8 | 2.4 | 2.5 | 0.1 | ... | 3.5 |
| | うち大企業性製品 | 21.4 | 0.1 | 1.5 | 1.7 | 0.2 | ... | 2.5 |
| | 中小企業性製品 | 25.2 | - 1.4 | 3.1 | 3.2 | 0 | ... | 4.2 |
| | サービス | 33.6 | 0.8 | 2.4 | 1.0 | 0.3 | ... | 4.9 |

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *は速報。

◇経常収支(貿易収支季節調整後)は3ヵ月連続の黒字

6月の国際収支は、貿易収支が輸入の減少を主に因に黒字幅を拡大(2,583百万ドル、前月同856百万ドル)したため、貿易外収支の赤字幅拡大にもかかわらず、経常収支では1,315百万ドルの黒字と再び黒字に転じた(前月277百万ドルの赤字)。また、貿易収支季節調整後のベースでは890百万ドルの黒字と3ヵ月連続の黒字を記録した。もっとも、長期資本収支は、対外証券投資を中心に本邦資本が高水準の流出をみたことから、1,825百万ドルの大幅流出超となり、総合収支では954百万ドルの赤字(前月同1,172百万ドル)となった。

なお、6月末の外貨準備高は、27,837百万ドルとなり、15ヵ月連続の増加を記録した(前月末比+102百万ドル)。

(輸出—微減)

6月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)

は、-0.9%と前月(-2.9%)に続き微減となった。もっとも、4~6月通計では+1.0%(前期+7.8%)と底固い増勢を維持している。6月の動きを、品目別(通関・ドルベース)にみると、テープレコーダー、ラジオ等の弱電製品が根強い伸びを続け、また、合織、プラスチック等の素材品目も増加したものの、自動車が欧米等への輸出自粛の影響もあって伸び悩み、船舶、鉄鋼も前月増加の反動などから落込みをみた。

なお、7月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、前月減少のあと+2.4%の増加となった。品目別には、化学製品、自動車が減少の一方、繊維製品、電気機械、鉄鋼が増加した。

(輸入—大幅減少)

6月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、-7.5%と前月微増(+0.5%)のあと大幅減少となり、4~6月通計でも-5.0%と3四半期ぶりの減少となった。6月の動きを、品目別(通関・

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

| | 55年 | | 56年 | | 56年 | | | 前年同月 |
|-----------|----------------|------------------|----------------------|----------------------|--------------------|------------------|----------------|------|
| | 10~12月 | 1~3月 | *4~6月 | *4月 | *5月 | *6月 | | |
| 経常収支 | 608 | △ 2,076 | 1,512 | 474 | △ 277 | 1,315 | △ 888 | |
| 貿易収支 | 3,759 | 2,048 | 4,956 | 1,517 | 856 | 2,583 | 124 | |
| 輸出 | 36,514 | 34,924 | 37,404 | 12,622 | 12,192 | 12,590 | 10,688 | |
| 輸入 | 32,755 | 32,876 | 32,448 | 11,105 | 11,336 | 10,007 | 10,564 | |
| 貿易外収支 | △ 2,810 | △ 3,580 | △ 3,171 | △ 962 | △ 1,047 | △ 1,162 | △ 877 | |
| 移転収支 | △ 341 | △ 544 | △ 273 | △ 81 | △ 86 | △ 106 | △ 135 | |
| 長期資本収支 | △ 445 | 2,592 | △ 5,737 | △ 3,188 | △ 724 | △ 1,825 | 1,102 | |
| 本邦資本 | △ 3,309 | △ 4,517 | △ 5,228 | △ 1,262 | △ 1,270 | △ 2,696 | △ 608 | |
| 外国資本 | 2,864 | 7,109 | △ 509 | △ 1,926 | 546 | 871 | 1,710 | |
| 基礎的収支 | 163 (△ 669) | 516 (△ 1,870) | △ 4,225 (△ 3,709) | △ 2,714 (△ 2,361) | △ 1,001 (△ 413) | △ 510 (△ 935) | 214 (△ 256) | |
| 短期資本収支 | 1,388 | 904 | 90 | 303 | 192 | △ 405 | 363 | |
| 誤差脱漏 | △ 879 | 1,004 | △ 434 | △ 32 | △ 363 | △ 39 | △ 577 | |
| 総合収支 | 672 | 2,424 | △ 4,569 | △ 2,443 | △ 1,172 | △ 954 | 0 | |
| 金融勘定 | 672 | 2,424 | △ 4,569 | △ 2,443 | △ 1,172 | △ 954 | 0 | |
| 外貨準備増減 | 1,464 | 1,788 | 817 | 324 | 391 | 102 | 1,238 | |
| その他 | △ 792 | 636 | △ 5,386 | △ 2,767 | △ 1,563 | △ 1,056 | △ 1,238 | |
| 外貨準備高 | 25,232 | 27,020 | 27,837 | 27,344 | 27,735 | 27,837 | 22,642 | |
| 為銀対外ポジション | △ 32,816 | △ 32,625 | △ 37,447 | △ 35,279 | △ 36,495 | △ 37,447 | △ 33,627 | |

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
 4. *印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

| | 国際収支ベース | | | 通 関 | | 輸 出 信用状 |
|-------------|-------------------|-------------------|-------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 輸 出 | 輸 入 | 貿易じり | 輸 出 | 輸 入 | |
| 55年10~12月平均 | 11,547 (+ 8.0) | 10,572 (+ 3.5) | 975 | 11,898 (+ 8.5) | 11,972 (+ 3.8) | 7,726 (+ 1.8) |
| 56年1~3月平均 | 12,444 (+ 7.8) | 11,310 (+ 7.0) | 1,134 | 12,607 (+ 6.0) | 12,446 (+ 4.0) | 8,525 (+ 10.3) |
| *4~6 " | 12,568 (+ 1.0) | 10,744 (- 5.0) | 1,824 | 12,863 (+ 2.0) | 12,020 (- 3.4) | 8,340 (- 2.2) |
| 56年 3月 | 12,395 (- 1.1) | 11,431 (- 0.6) | 964 | 12,391 (- 2.2) | 12,531 (+ 0.1) | 8,428 (- 6.1) |
| *4 " | 12,855 (+ 3.7) | 10,985 (- 3.9) | 1,870 | 13,179 (+ 6.4) | 12,381 (- 1.2) | 8,332 (- 1.1) |
| *5 " | 12,482 (- 2.9) | 11,038 (+ 0.5) | 1,444 | 12,861 (- 2.4) | 12,095 (- 2.3) | 8,406 (+ 0.9) |
| *6 " | 12,367 (- 0.9) | 10,209 (- 7.5) | 2,158 | 12,548 (- 2.4) | 11,586 (- 4.2) | 8,283 (- 1.5) |

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。
 3. *印は暫定。

ドルベース)にみると、鉄鉱石、砂糖、とうもろこしがかなりの増加となったものの、小麦、羊毛、綿花が引続き減少し、前2か月増加した原油も数量要因を中心に著減した。

◇雇用関連指標は総じてなお足踏み

(常用雇用——引続き小幅増加)

4～6月の常用雇用(季節調整済み、前期比)は、非製造業が横ばいにとどまったものの、製造

業が+0.6%と前期減少(-0.2%)のあとかなりの増加となったため、全体では+0.3%と緩やかな増勢を続けた(前年同期比+0.8%)。

(有効求人倍率——引続き低下)

4～6月の有効求人倍率(季節調整済み)は、有効求職が引続き増加(前期比+4.6%)したうえ、有効求人が減少(同-1.4%)したため、0.66倍(前期0.70倍)と5期連続の低下となった。この間、

完全失業率と常用雇用の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

| | 労働力人口 | | 就業者 | | 完全失業 | | | | 常用雇用 | |
|---------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------|------|-------|-----|------|---------------------|
| | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | 季節調整済計数 | | 原計数 | | 全産業 | 原計数 前年同期(月) 比 |
| | | | | | 失業者数 | 失業率 | 失業者数 | 失業率 | | |
| 55年7～9月 | 0.7 | 1.2 | 0.6 | 1.2 | 116万人 | 2.05 | 112万人 | 2.0 | 0.2 | 0.8 |
| 10～12月 | 0.0 | 1.0 | -0.1 | 0.9 | 123 | 2.17 | 117 | 2.1 | 0.2 | 0.8 |
| 56年1～3月 | 0.6 | 1.5 | 0.6 | 1.2 | 123 | 2.15 | 133 | 2.4 | 0.1 | 0.8 |
| 4～6月 | -0.2 | 1.1 | -0.4 | 0.8 | 133 | 2.33 | 132 | 2.3 | 0.3 | 0.8 |
| 56年2月 | -0.0 | 1.5 | -0.2 | 1.1 | 127 | 2.23 | 135 | 2.4 | -0.1 | 0.7 |
| 3月 | 0.2 | 1.5 | 0.2 | 1.2 | 124 | 2.17 | 142 | 2.5 | 0.1 | 0.7 |
| 4月 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 1.2 | 133 | 2.32 | 137 | 2.4 | 0.2 | 0.8 |
| 5月 | -0.8 | 1.2 | -0.9 | 0.8 | 136 | 2.39 | 132 | 2.3 | 0.1 | 0.8 |
| *6月 | -0.1 | 0.7 | 0.0 | 0.4 | 130 | 2.29 | 126 | 2.2 | 0.2 | 1.0 |

(注) 1. 労働力人口、就業者、完全失業は総理府調べ。

2. 常用雇用は労働省調べ。常時30人以上の常用雇用者を雇用する民営、公営事業所を対象(抽出標本数は約16,700事業所)。*は速報。

労働力需給(新規学卒者を除く)

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

| | 有効求人倍率 | 有効求人 | | 有効求職 | | 新規求人倍率 | 新規求人 | | 新規求職 | | 充足率 |
|---------|--------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------|---------------------|---------------------|------|------|------|
| | | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | | 原計数 前年同期(月) 比 | 原計数 前年同期(月) 比 | | | |
| 55年7～9月 | 0.74 | -0.2 | 2.3 | 1.7 | 1.6 | 1.05 | -2.3 | -1.9 | 2.4 | 8.3 | 10.5 |
| 10～12月 | 0.72 | -1.1 | -3.2 | 1.9 | 4.5 | 1.02 | -0.8 | -6.2 | 2.3 | 10.0 | 11.2 |
| 56年1～3月 | 0.70 | -1.5 | -4.8 | 1.4 | 5.9 | 0.96 | -4.8 | -7.1 | 1.4 | 8.5 | 11.4 |
| 4～6月 | 0.66 | -1.4 | -4.4 | 4.6 | 9.9 | 0.93 | 0.5 | -7.6 | 3.7 | 10.1 | 11.2 |
| 56年2月 | 0.71 | -2.7 | -5.4 | -0.4 | 4.4 | 0.97 | -4.6 | -9.6 | -0.4 | 3.1 | 11.2 |
| 3月 | 0.67 | -2.4 | -5.6 | 3.5 | 8.1 | 0.89 | 1.0 | -5.7 | 9.0 | 18.6 | 11.5 |
| 4月 | 0.66 | 0.9 | -4.9 | 1.7 | 9.0 | 0.87 | -0.3 | -9.9 | 2.3 | 13.1 | 10.8 |
| 5月 | 0.65 | -1.3 | -5.9 | 0.4 | 10.0 | 0.96 | -1.0 | -9.8 | -9.7 | 5.4 | 11.2 |
| *6月 | 0.66 | 3.6 | -2.2 | 1.3 | 11.0 | 0.95 | 7.2 | -1.9 | 7.9 | 11.9 | 11.5 |

(注) 1. 労働省調べ。

2. 有効求人倍率 = $\frac{\text{有効求人(親規求人+前月からの繰越求人)}}{\text{有効求職(新規求職者+前月からの繰越求職者)}}$

3. 新規求人倍率 = $\frac{\text{新規求人}}{\text{新規求職者}}$

4. 充足率 = $\frac{\text{就職者数}}{\text{有効求人}} (\%)$ *は速報。

新規求人倍率も、0.93倍(前期0.96倍)と6期連続の低下となった。もっとも、月次で見ると、5、6月は新規求人の増加などから幾分持直し気味となっている。

なお、新規求人は、+0.5%と前3期減少のあと小幅増加に転じているが、これを業種別にみると、農林水産業が引続き減少したものの、製造業、卸小売業が前3期減少のあと増加に転じたほか、建設業、サービス業、運輸・通信業も前期減少のあと増加した。

(完全失業率——前期小幅低下のあと上昇)

4～6月の完全失業率(季節調整済み)は、2.33%と、自営業主、家族従業者を中心とする就業者数の小幅減少(前期比-0.4%)を主因に、前期(2.15%)小幅低下のあと上昇した。

この間、就業者数の内訳を業種別にみると、製造業が前期に続く増加となり、建設業、サービス業も増加に転じたものの、卸小売業、運輸・通信業、農林業はいずれも減少した。また、形態別には、雇用者が増加を続けたものの、自営業主、家族従業者が減少した。

(所定外労働時間——前期小幅増加のあと減少)

4～6月の所定外労働時間(全産業、常用雇用

所定外労働時間の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

| | 全産業 | | 製造業 | | 非製造業 | |
|----------|-----------------------|----------------|-----------------------|----------------|-----------------------|----------------|
| | 原計数 前 同 (月)比 | 年 期 (月)比 | 原計数 前 同 (月)比 | 年 期 (月)比 | 原計数 前 同 (月)比 | 年 期 (月)比 |
| 55年 7～9月 | -1.4 | 1.3 | -1.5 | 4.7 | -2.2 | -1.7 |
| 10～12月 | -1.3 | -1.6 | -3.1 | -1.8 | 1.2 | -1.6 |
| 56年 1～3月 | 0.2 | -2.5 | 0.4 | -3.9 | 0.7 | -1.2 |
| 4～6月 | -3.0 | -2.9 | -1.2 | -5.2 | -0.7 | -0.9 |
| 56年 2月 | -0.9 | -2.9 | -1.3 | -4.1 | -1.5 | -1.8 |
| 3月 | -1.1 | -3.5 | -0.7 | -5.7 | -0.1 | -1.5 |
| 4月 | 0.6 | -2.8 | 0.1 | -4.7 | 0.3 | -1.3 |
| 5月 | -0.9 | -3.7 | -1.2 | -6.2 | -1.1 | -1.6 |
| *6月 | 1.3 | -2.2 | 1.4 | -4.7 | 1.3 | 0.1 |

(注) 労働省調べ。常時30人以上の常用雇用者を雇用する民営、公営事業所を対象(抽出標本数は約16,700事業所)。非製造業は常用雇用者数から原計数を推定し、これをセンサ局法により季節調整。*は速報。

1人当たり、季節調整済み、前期比)は、製造業(-1.2%)、非製造業(-0.7%)とも前期増加のあと減少したため、全体でも-3.0%と前期小幅増

賃金の推移(1人当たり平均)

(前年同期(月)比増減率・%)

| | 全産業 | | 製造業 | | 非製造業 | | 実質賃金 | | |
|----------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|
| | 総額 | 定期 | 総額 | 定期 | 総額 | 定期 | 総額 | 定期 | 製造業 |
| 55年 7～9月 | 6.7 | 6.3 | 8.3 | 7.3 | 5.6 | -1.6 | -2.0 | -0.1 | |
| 10～12月 | 7.3 | 6.0 | 7.5 | 6.6 | 7.0 | -0.5 | -1.7 | -0.3 | |
| 56年 1～3月 | 5.6 | 5.7 | 6.1 | 5.7 | 5.5 | -0.9 | -0.9 | -0.5 | |
| 4～6月 | 6.3 | 5.7 | 5.4 | 5.8 | 6.8 | 1.0 | 0.5 | 0.1 | |
| 56年 2月 | 5.5 | 5.7 | 6.0 | 5.8 | 5.3 | -1.0 | -0.7 | -0.5 | |
| 3月 | 5.4 | 5.5 | 5.1 | 5.5 | 5.5 | -0.7 | -0.7 | -1.1 | |
| 4月 | 6.0 | 5.7 | 5.9 | 5.9 | 6.0 | 0.7 | 0.5 | 0.6 | |
| 5月 | 5.6 | 5.7 | 5.7 | 5.7 | 5.6 | 0.2 | 0.3 | 0.2 | |
| *6月 | 7.0 | 5.8 | 5.0 | 5.8 | 7.9 | 1.8 | 0.6 | -0.2 | |

(注) 労働省調べ。非製造業は常用雇用者数から原計数を推定したうえ算出。

定期給与=基準内賃金+所定外給与、給与総額=定期給与+特別給与

*は速報。

労働生産性の推移

(前年同期(月)比増減率・%)

| | 労働生産性 | | | 労働投入量 | | 賃金(参考) | |
|----------|-------|------|-------------------|-------|------|--------|------|
| | 総合 | 製造工業 | 季節調整 前 (月)比 | 製造工業 | 製造工業 | 総合 | 製造業 |
| 40～45年平均 | 17.4 | 17.5 | ... | 16.1 | 2.2 | ... | ... |
| 51年平均 | 12.0 | 12.3 | ... | 11.2 | 0.8 | 12.5 | 12.3 |
| 52月 | 5.0 | 5.1 | ... | 4.1 | 1.3 | 8.5 | 8.5 |
| 53月 | 7.9 | 8.0 | ... | 6.2 | 1.5 | 6.4 | 5.9 |
| 54月 | 11.8 | 12.1 | ... | 8.5 | 2.9 | 6.2 | 7.4 |
| 55月 | 9.0 | 9.2 | ... | 7.2 | 2.0 | 7.0 | 8.1 |
| 55年 4～6月 | 10.5 | 10.8 | 0.5 | 9.4 | 1.7 | 6.7 | 8.8 |
| 7～9月 | 5.6 | 6.0 | 0.1 | 4.7 | 1.4 | 6.7 | 8.3 |
| 10～12月 | 6.4 | 6.6 | 1.6 | 3.6 | 3.2 | 7.3 | 7.5 |
| 56年 1～3月 | 3.3 | 3.5 | 1.5 | 1.1 | 2.7 | 5.6 | 6.1 |
| 55年 12月 | 7.0 | 7.2 | 2.5 | 4.1 | 3.1 | 7.2 | 7.4 |
| 56年 1月 | 4.4 | 4.5 | 0.4 | 13.3 | 5.9 | 6.1 | 7.2 |
| 2月 | 2.7 | 2.8 | 0.2 | 0.8 | 3.5 | 5.5 | 5.7 |
| 3月 | 2.9 | 3.2 | 1.2 | 1.3 | 2.9 | 5.4 | 5.5 |
| 4月 | 1.1 | 3.5 | 0.3 | 1.1 | 2.7 | 6.0 | 5.7 |

(注) 生産性本部調べ。季節調整はセンサ局法による。

加(+0.2%)のあと減少した(前年同期比では-2.9%と3期連続の前年水準割れ)。

(賃金——実質賃金は6期ぶりに前年水準を回復)

4～6月の名目賃金(常用雇業者1人当り現金給与総額、前年同期比)は、製造業(+5.4%)が前期(+6.1%)に比べ伸び率低下をみたものの、非

製造業(+6.8%)がかなり伸びを高めた(前期+5.5%)ため、全体でも+6.3%と前期(+5.6%)を上回る伸びとなった。この間、実質賃金は、消費者物価の落ち着き定着(前年同期比1～3月+6.6%→4～6月+5.3%)もあって、+1.0%と54年10～12月以来6期ぶりに前年水準を回復した。